

諏訪之瀬島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方气象台

＜噴火警戒レベル2（火口周辺規制）が継続＞

御岳^{おたけ}火口では、本日（6日）03時17分の爆発に伴い、弾道を描いて飛散する大きな噴石が最大で火口から約900mまで達しました。諏訪之瀬島では3月2日以降、爆発が増加しており、火山活動が高まっています。

【防災上の警戒事項等】

御岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

○ 活動概況（図1～5）

御岳^{おたけ}火口では、活発な噴火活動が続いています。

本日（6日）03時17分の爆発では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から南東方向に約900mまで飛散しました（白矢印）。

3月2日から爆発が増加しており、2日から本日04時までに132回（速報値）発生しています。傾斜計による地殻変動データに、大きな変化はみられていません。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/index.html>）や気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、東京大学及び十島村のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。



図1 諏訪之瀬島 噴火の状況（3月6日、寄木監視カメラ）

本日（6日）03時17分の爆発では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から南東方向に約900mまで飛散しました（白矢印）。

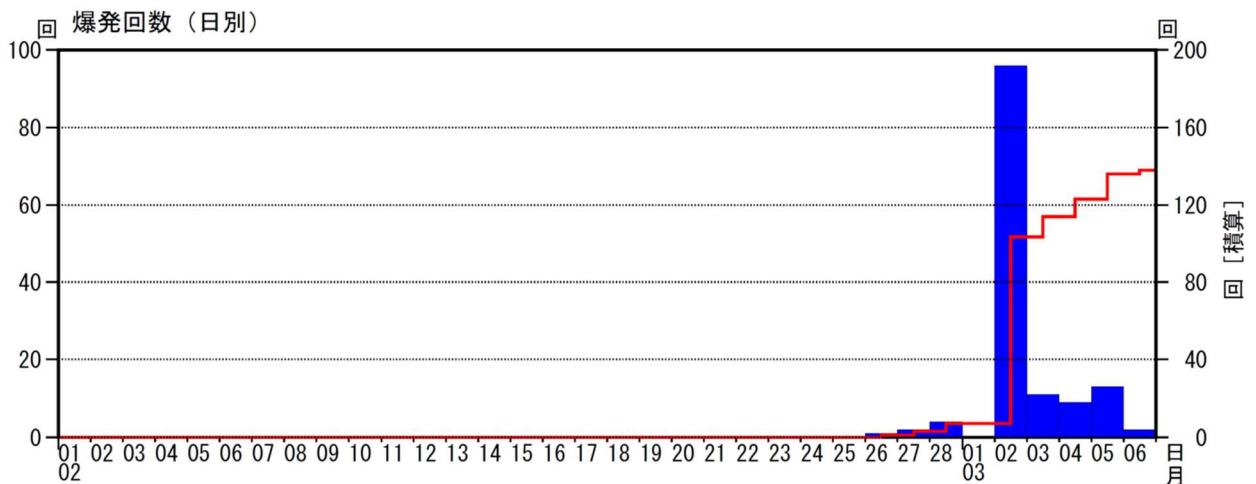


図2 諏訪之瀬島 爆発の日別回数と積算回数（2021年2月1日～3月6日04時速報値）
3月2日から爆発が増加しており、2日から本日04時まで132回（速報値）発生しています。

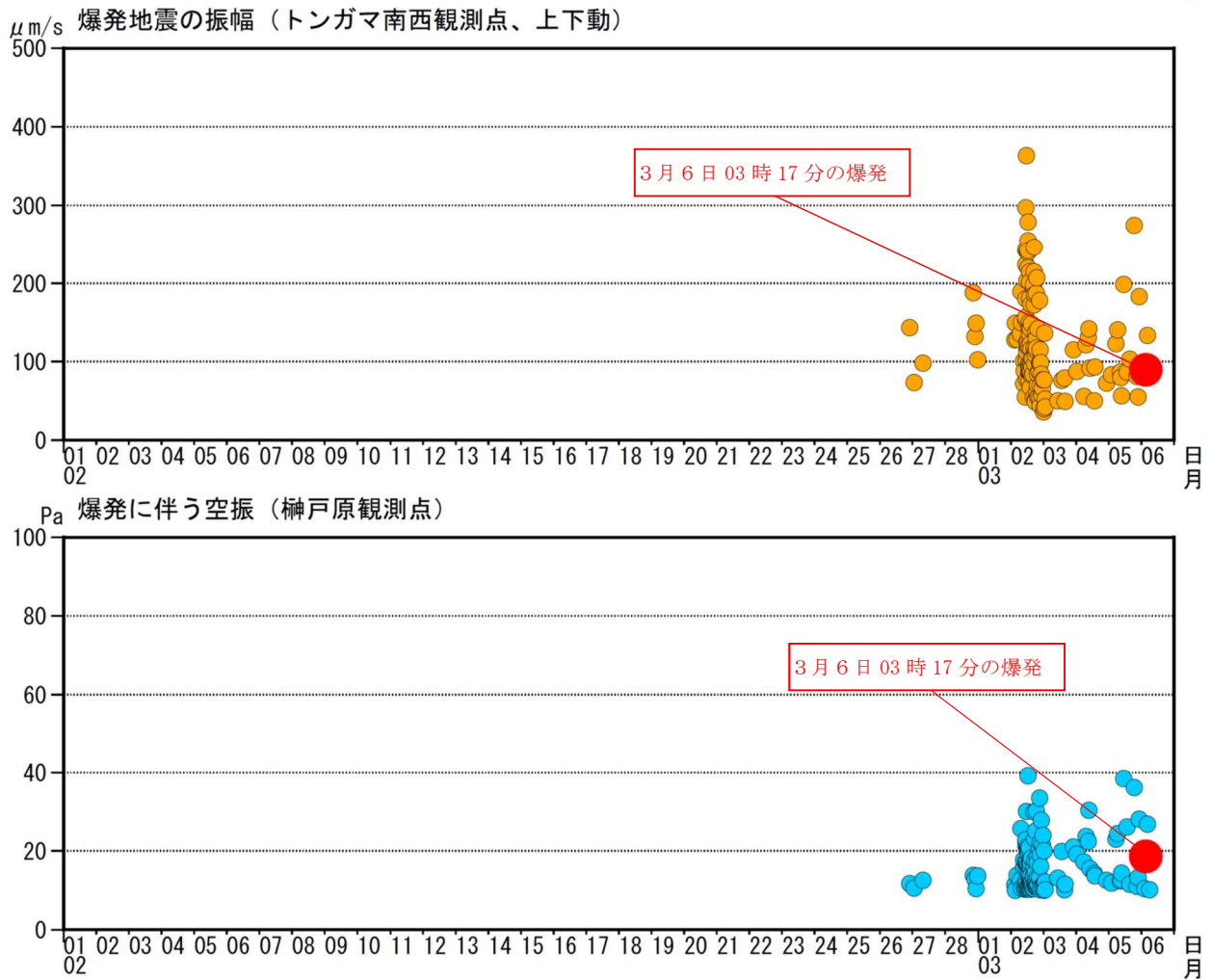


図3 諏訪之瀬島 爆発地震の振幅（上図：トンガマ南西観測点UD）、空振の振幅（下図：榊戸原観測点）（2021年2月1日～3月6日04時）

3月2日から爆発が増加しています。本日03時17分の大きな噴石が火口から南東方向に約900mまで飛散した爆発では、トンガマ南西観測点で最大振幅89.9 $\mu\text{m/s}$ 、榊戸原観測点（御岳火口から南南西約4km）の空振計で18.6Paを観測しました。

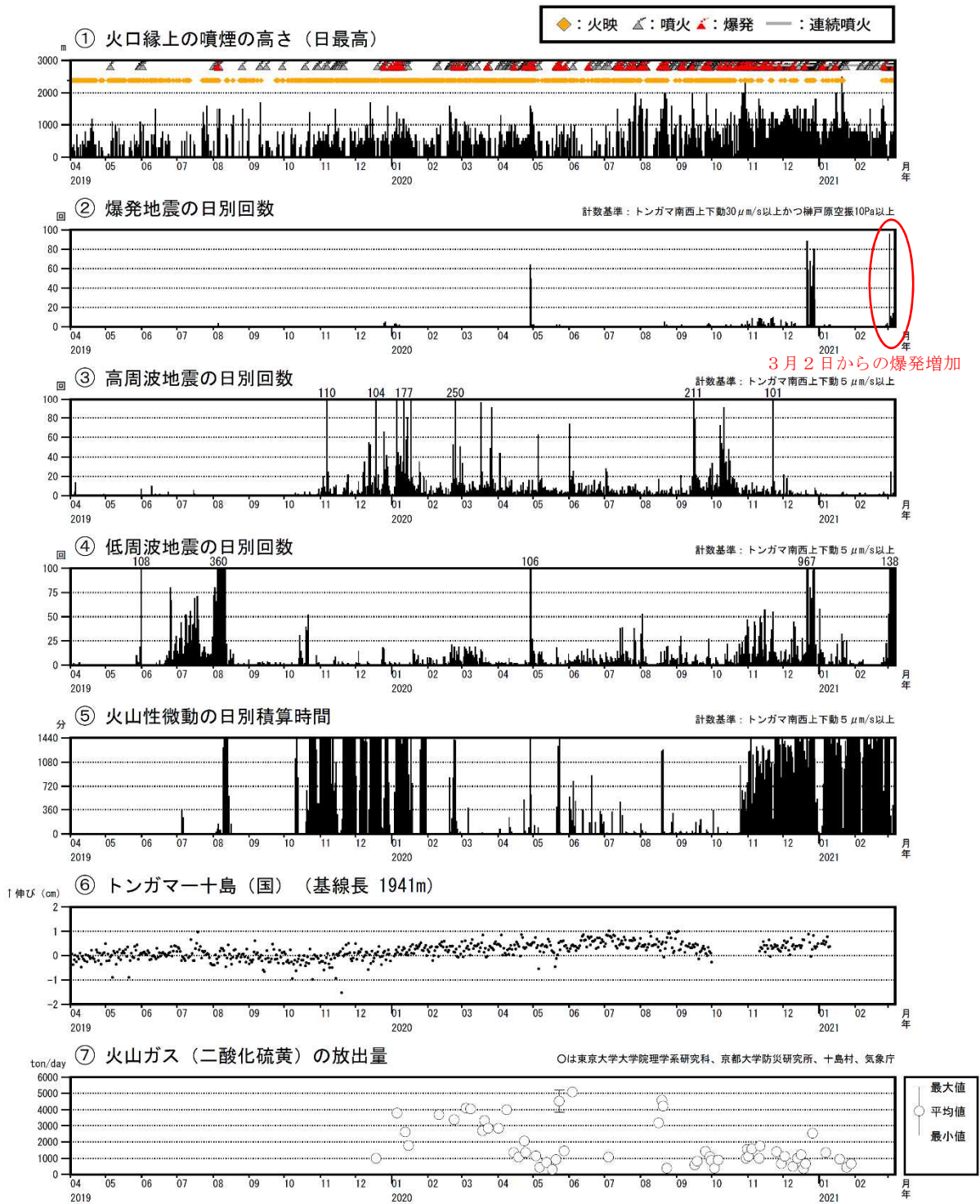


図4 諏訪之瀬島 最近の火山活動経過図（2019年4月～2021年3月6日04時速報値）

- ・ 3月2日から爆発が増加しています。
- ・ 火山性微動は主に噴火に伴って発生しています。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁は2019年12月より火山ガス（二酸化硫黄）放出量の観測を始めました。
 トンガマ南西観測点の地震計の機器障害により、ナベタオ観測点または御岳南山腹観測点で計数している期間があります。
 ⑥の基線は図5の①に対応しています。空白部分は欠測を示しています。

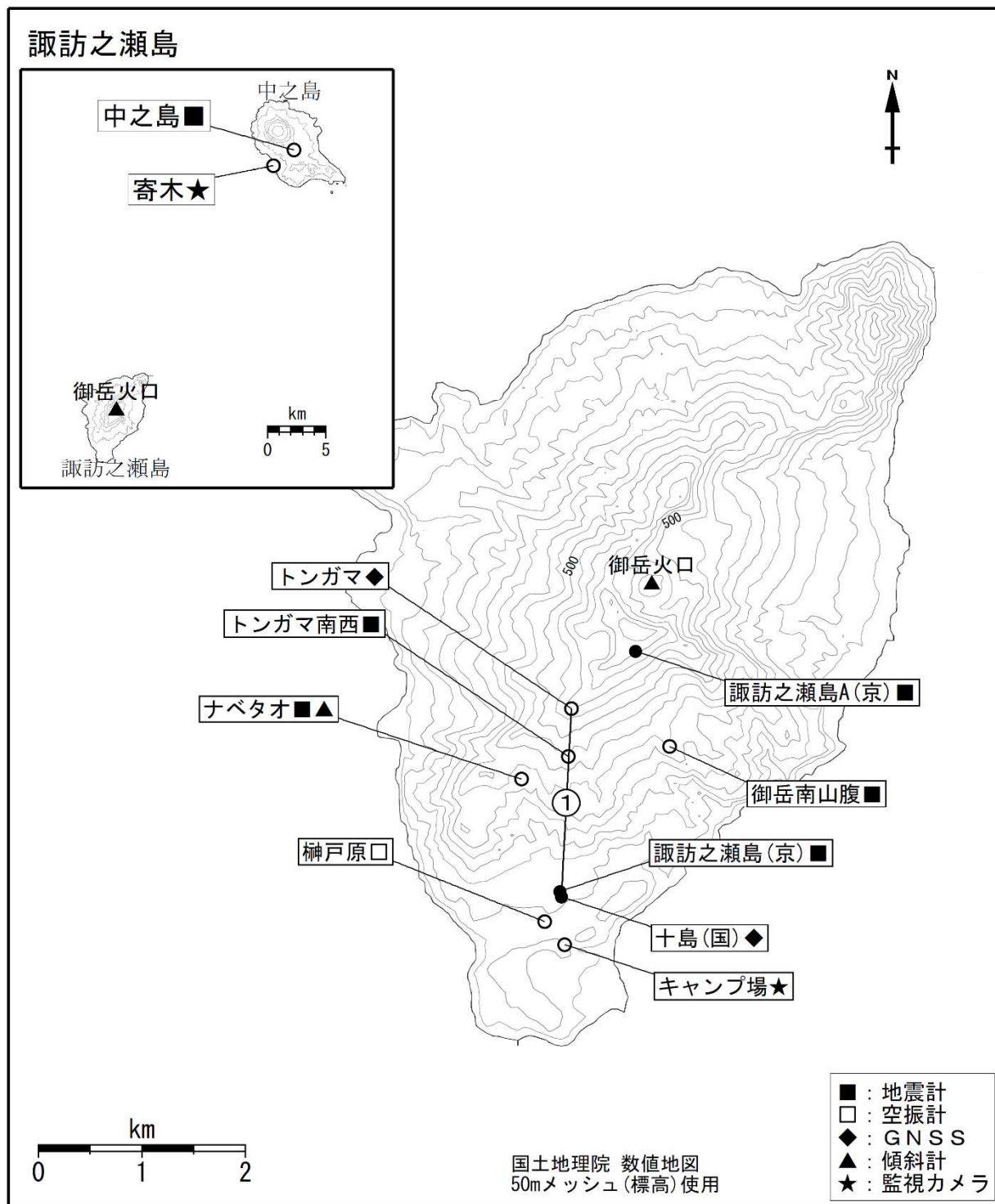


図5 諏訪之瀬島 観測点配置図とGNSS連続観測による基線番号

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院、(京): 京都大学